



大戸農村舞台

みずの かずのり
水野 和憲 (友の会会員)

大戸農村舞台(写真1)は、海部郡美波町(旧日和佐町)大戸の新田神社(旧社格村社)境内にあります。新田神社は、品陀別命(応神天皇の諱)を主祭神とする地域の氏神であり、氏子数30戸ほどの小さな神社ですが、「ウバメガシ」としては幹回りが県下一とされる大木があります(写真2)。

農村舞台には、明治33年築の棟札(写真3)があります。間口6間奥行き3間半の木造平屋一部



写真1：大戸農村舞台



写真2：ウバメガシ

二階建ての^{ぶちょう}部帳造り(部帳とは舞台床面の拡張装置であり、上部は雨戸であるが、下部は90度倒すと吊り下げた足が支えとなって、舞台を広げる役割を果たす。)(写真4)で、^{だいじんばしら}大臣柱(舞台の奥にある柱)や^{いろり}囲炉裏があり、^{たゆうざ}太夫座は平成22年の公演時に造築されました。

美波町にも以前は多くの舞台がありましたが、今は現代建築の集会所となり、現存する舞台は僅か数か所となりました。

このような^{じょうるりしばい}浄瑠璃芝居に利用することのできる舞台の数は、全国でも徳島県が一番多く、吉野川流域から離れた勝浦郡・那賀郡・海部郡に集中しています。藍作地帯であった吉野川流域ほどの経済力をもたなかったこれら3郡では、村内の神社境内に舞台を設営し、慣らし芝居(地域住民による素人芝居)や村の^{よりあい}寄合、祭りの^{なおり}直会^の場として積極的に利用してきました。



写真3：棟札



写真4：部帳



写真 5：勝浦座の公演

私が幼い頃には、阿南市福井町の素人芝居との交流が盛んに行われており、その道具類の一部が現在も残されております。当時は娯楽が少なく、農村舞台で映画を上映することが、民衆にとって数少ない楽しみの一つでありました。まさに憩いの場、コミュニティーセンターとしての役割を果たしていたのです。

ところが、昭和 40 年頃から様子が大きく変わり、秋祭りの際に農村舞台で行っていた、御輿の担ぎ手のお籠りや山車の打ち子の練習は、現在は見られなくなっています。また、家重（天秤棒で担ぐ大きな重箱）にご馳走を入れて寄り合うことも、酒飲みの喧嘩が聞こえることも、今はもうありません。

少子高齢化が進行し、限界集落となっているこの地ですが、この舞台を生かして地域の活性化を図ることはできないかと考え、平成 22 年の春に新田神社拝殿の新築工事が完成した際に、大戸農村舞台保存会を立ち上げ、私が事務局を務めることになりました。当時、海部郡内で人形浄瑠璃を行っている舞台がなかったため、新築祝いとして阿南市新野町の中村園太夫（岡花）座をお招きして公演を行いました。以後、阿波木偶箱まわし保存会、勘緑、勝浦座（写真 5）と 4 年連続で公演を行っております。一昨年には、徳島県南部総合県民局の「地域がキャンパス推進事業」で徳島文理大学の学生に「農村舞台の保存と活用」の講義を行いました（写真 6）。

今後も、伝統文化の残る古い建造物を大切に、多くの人々の共感や協力をいただきながら、「新しい時代の新しい生き方」を切り拓いていきたいと思っています。



写真 6：講義「農村舞台の保存と活用」の様子

友の会行事報告

化石を探そう（淡路島）

- 日 時 11 月 16 日（日）9:00～17:30
- 場 所 兵庫県南あわじ市
- 担 当 なか おけんいち 中尾賢一（博物館学芸員）
つじの やすゆき 辻野泰之（博物館学芸員）
まつおか いさお 松岡 功（博物館主任）
- 参加者 42 名

今回訪れた南あわじ市には、約 7000 万年前の白亜紀後期の地層（和泉層群）が広く分布しており、地層中からアンモナイトや二枚貝、カニなどの化石が採集できます。

当日は快晴で、絶好の化石採集日和となりました。参加者は、バスを停めた道路沿いから、白亜紀の地層が露出する海岸まで急な坂を下り、化石採集ポイントに向かいました。午前中は、アンモナイトやカニなどが産出する崖の下で、化石の採集を行いました。参加者は慣れないハンマーを振るって化石を探していましたが、このポイントは、化石を含む岩石（砂岩や砂質泥岩）が硬く、参加者の多くは化石採集の難しさを痛感したと思います。

午後は、海岸を西へ移動し、別のポイントで化石採集を行いました。午前中の岩石に比べて、化石を含む岩石（泥岩）が硬くないため、参加者の多くが化石を発見することができました。ほとんどの方は二枚貝の化石を見つけられ、幸運にもエビのツメを発見された方もいました。

友の会行事の化石採集会としては、これまでになく大人数ということで、順調に採集会が進むか心配でしたが、怪我もなく、多くの方に満足していただけたと思います。(辻野泰之:博物館学芸員)



●^{よしおかりひと}芳岡凜史さん

おもしろかったです。とくに石をハンマーでたたくのがおもしろかったです。貝の化石が見つかってうれしかったです。

●^{おがたいしん}小方惟心さん

ハンマーでどンドンわっていった。何が入っているか見る時がドキドキして楽しかった。ぼくは何回見ても1こも見つからなかった。がんばったけどざんねんだった。次もぜったいにさんかしたい。ありがとうございました。

●^{しのはらみずき}篠原瑞稀さん

和泉そう群でたくさん化石がとれてうれしかったです。学芸員の先生方に色々教えていただき、とても勉強になりました。もっと化石について知りたいので、また参加したいです。楽しみにしています。

●^{いわきひでゆき}岩城秀行さん

楽しい時間をありがとうございました。私は、化石が採れても採れなくてもフィールドに出るのが大好きです。普段も健康維持の為に外に出るように努めています。当日は、二枚貝や巻き貝の化石が採れたうえに、たくさんの人と話をすることができました。小さい子どもたちには少し厳しい採集会であったと思います。これからもこのような催しを続けてください。



地層や化石を説明する辻野学芸員

●^{ただゆうこ}多田由宇子さん

どんな場所で、どうやって、どんな化石が見つかるか興味津々で参加しました。石が硬かったり、顔に破片が飛んできて怖かったりして、私はすぐに探すのをあきらめてしまいました。でも、地層の前で中央構造線や砂岩、泥岩の説明を聞くことができ、地球の歴史に思いを馳せ、貴重な時間を過ごすことができました。小学1年生の息子は、とても熱心に石を探しては割って観察し、海岸の自然や漂着物も含めて、全身で満喫し楽しんだ様子でした。子どもは自然の中で飽きるということがないのが印象的でした。またこのような野外活動に参加したいと思いました。

●^{あしだゆうひ}蘆田悠日さん

ぼくが行ったら、むずかしいけどおもしろかったです。2年、3年、4年、5年、6年、中がっこう、こうこう、大がくになっても、またいっぱいやりたいです。学校でもがんばります。

●^{よしまつももか}吉松桃香さん

かせきはとれませんでした。けれども、おもしろかったです。かせきをくれたのがうれしかったです。へやにかざりたいとおもいます。またいきたいです。

友の会行事報告

1 泊研修旅行

- 日時 11月30日(土)～12月1日(日)
- 場所 滋賀県近江八幡市周辺
- 担当 ^{とりい たかし なんぶようこ}鳥居 喬・南部洋子(友の会役員)
^{いそもとひろのり}磯本宏紀(博物館学芸員)
^{まつおか いさお}松岡 功(博物館主任)
- 参加者 25名

11月30日(土)は、朝7時に文化の森を出発し、まず数年前に「ひこにゃん」で有名になった国宝・彦根城へ行きました。昼食後は、時間の都合上、安土城跡と滋賀県立安土城考古博物館の二手に分かれて見学した後、近江八幡の街並みを自由に散策し、休暇村で宿泊しました。

12月1日(日)は、神戸市在住の会員さん3名

が現地集合で参加してくださいました。午前中は、野洲市歴史民俗博物館と滋賀県立琵琶湖博物館を見学し、昼食後は、紅葉真っ只中の三井寺（天台寺門宗総本山園城寺）を見学してきました。

2日とも天候に恵まれ、また盛りだくさんの内容で充実した1泊研修旅行になりました。

(松岡 功：博物館主任)



●七條 魁さん

安土城跡は、信長が秀吉に命じて造らせた大きな城跡です。完成後3年で消失したことが大変惜しまれます。僕は、安土城の威容を想像しながら山登りを始めました。1段が40cm前後ある石段が各所にあり、大人の人は杖を両手に持ち、ハーハー、ゼーゼー言いながら、苦しそうに登っていました。僕は平気でした。敷石には墓石が数か所埋められており、築城のための石集めに苦労したのだと思いました。頂上には天守閣を支えた礎石群があり、豪華なお城だったのだと想像しました。信長の墓や秀吉の屋敷跡を見ながら下山しましたが、歴史学習と関連して実りの多い旅行でした。

●篠原瑞稀さん

今回の行事で一番楽しみにしていたのは、現存天守の彦根城と安土城跡です。本でしか見たことがなかったので、実物を見ることができたときは、とてもうれしかったです。信長についても多くのことを学べたので、すごく勉強になりました。限られた時間の中で、いろいろ見られたのでよかったです。また行きたいです。

●鳥居 喬さん

まずはご参加の方々と先生方、お世話になり、またご迷惑をおかけしました。感謝とお礼を申し上げます。天候に恵まれ、遅いかなと思った紅葉を見られたことが一番の思い出です。八幡山からの琵琶湖の眺めも最高でした。彦根城の紅葉は綺麗でしたね。「ひこにゃん」と会えなかったのは残念です。野洲市歴史民俗博物館では、11月24日まで日本最大の銅鐸が里帰りしていたのです。1週間違いで観ることができず、残念でした。



安土城跡にて

●岩本英慈さん

快晴で温かい2日間でもとても快適だった。今回はこれまでと違って資料入手をせず参加したが、初めての場所ばかりで、各所で目一杯歩き、見て、聞いて、考えて、想像して、とても充実した研修だった。

彦根城は思っていたより広かった。「ひこにゃん」に会えなかったのは残念。安土城跡は、100mの山の上へ、400段の石段はきつかったけれど山頂まで登り、天守の形を想像したり、琵琶湖の眺めを楽しんだりした。近江八幡では八幡山から琵琶湖や安土山を遠望し、重要伝統的建造物保存地域の新町通りではうだつを見つけ、脇町のうだつとはデザインが随分違うなと思った。近江兄弟社の前の公園では、尊敬するヴォーリス氏の優しい表情の石像を見て感激した。宿舎の休暇村では温泉を楽しみ、早朝の水辺ウォーキングや日の出前後の空や水の色を楽しむことができ、いい写真も撮れた。

野洲市歴史民俗博物館では、日本最小とされる銅鐸が印象的だった。滋賀県立琵琶湖博物館では、芸員の方がアユの生態について詳しく教えてくれた。三井寺は紅葉がとても美しく、三重塔に重ねて撮ってみた。境内は広く西国札所が一番遠かった。

バスから見える景色は、富士山そっくりの近江富士、北海道のような広い田園風景、旧街道のあちらこちらに残る歴史的な街並みなど、刻々と移り変わり退屈しなかった。若い人たちも参加していて活気があり、後継者が育っていく気配を感じた。元気なうちに、同じ季節にこの研修コースを何回かに分けて行ってみたいと思っている。

友の会行事報告

郷土料理作り

- 日時 1月19日(日) 10:00～12:00
 ○場所 博物館実習室
 ○担当 伊勢ひとみ・大杉洋子・南部洋子
 松家京子(友の会役員)
 松岡 功(博物館主任)
 ○協力者 阿部末美・住友セツ子・松尾百合子
 (友の会会員)
 ○参加者 23名

かえり(かえりちりめんの略。ちりめんじゃこが大きくなったもの。)や鯉節を練り込んだ「いりこみそ」、山芋をたっぷり入れたふんわりした食感の「小男鹿風蒸し菓子」、愛媛県の郷土料理「いもたき」を作りました。子どもさんも4人参加され、初めての包丁にドキドキしながらも意欲的にチャレンジしていました。最後は持参したごはんやおにぎりと一緒においしくいただきました。

(松岡 功：博物館主任)



●大戸井正臣さん

友の会の皆さんといりこみそ、蒸し菓子、いもたきを作り、おいしくいただきました。とても楽しかったです。家族で来られる方は、とても良い1日になると思いますので、ご家族おそろいで奮って参加していただけたらと思います。



上手に切れるかな？

●小方惟心さん・心優さん

ねぎを切ったり、山いもをすったり、じゅんぴは大へんだと思った。山いもがわがしになるのを見ておどろいた。でき上がりはふっくらもちもちで、おいしかった。いろいろ教えてもらえて楽しかった。

友の会行事報告

梅見ハイキング

- 日時 3月15日(土) 13:00～16:30
 ○場所 神山町阿川梅の里
 ○担当 行成正昭(友の会役員)
 茨木 靖(博物館学芸員)
 松岡 功(博物館主任)
 ○参加者 17名

雲一つない晴天の中、梅見ハイキングが開催されました。お昼過ぎに、阿川小学校のグラウンドに集合して歩き始めました。平地では梅はほとんど終わっている季節で、山地ではどうなっているかと心配しましたが、ここ阿川では、今がまさに花盛りでした。谷の中一面に、白や薄桃色の花が咲き誇っていました。ここ神山町での梅栽培の歴史は古く、戦中から昭和30年代にかけて、梅干しとしての利用や梅酒ブームの効果によって、鶯宿種を中心とした栽培が急速に進みました。現在は、鶯宿種を中心に南高や白鶯なども栽培されるようになり、栽培面積、生産量はともに四国1位を維持しているそうです。今回は、長い7キロのコースを歩きました。途中、梅や昆虫、道沿いの植物についての解説を交えながら進みました。

同じバラ科植物の仲間、モモ、スモモ、サクラなどは、まだ固い蕾の状態でした。他の花もそうですが、梅の花も私たちが喜ばせるために花を咲かせているのです。多くの花は甘い蜜で昆虫たちを誘い、花粉の受粉に訪れた昆虫たちに託しているのです。梅がこのような早春に花を咲かせても、果たして昆虫たちに訪れてもらえるのか気がかりでしたが、注意深く観察してみると、ミツバチ、アブやハエの仲間が訪花しておりました。梅は他の花に先んじて花

を咲かせ、少ないながらもその頃活動を始める昆虫たちを独り占めにしようとする戦略がうかがえます。そのうえ、梅の花は昆虫たちを呼び集める花蜜が少ないようです。できるだけ少ない蜜の量、すなわち少ない投資で大きな利益をあげるという魂胆が感じられます。

道々、上を眺めているとチョウが飛んでいることに気が付きました。成虫で越冬し、早春に花をよく訪れる、突き出した頭部の形からテングチョウと名付けられているチョウです。また、道沿いの樹木や岩肌に茎（蔓）^{かづら}から気根を出して張り付いているキツタ（ウコギ科）が見られましたが、この辺りのキツタの多くは、正常実より大きく楕円形をした果実を付けているものが多いことに気が付きました。これは、キツタの花蕾がキツタツボミタマバエ（タマバエ科）に寄生され、虫えい化（ゴール化、虫こぶ化）したものです。皆さんに見ていただくために内部を割いてみると、1つの幼虫室があり、その中に1匹の幼虫が入っていました。

また、植物ではウメ以外にもシロバナショウジョウバカマが見頃でしたし、マメツタやトウゲシバナなどの変わったシダも観察できました。歴史資料では、「石風呂」という昔の蒸し風呂を見学しました。石でつくられた室の中で火を炊いて、サウナのようにするのだそうです。この時期は、ちょうど「阿川梅まつり」が開催されていたこともあり、道沿いには屋台も出店していて、それぞれに梅干しなどを買いながら、楽しい時間を過ごすことができました。

下見のときは「こんなに長く険しい道のりで、果たして皆さんは最後まで歩けるのだろうか」と心配しましたが、皆さん元気に帰り着くことができました。暖かい春の日差しの中、とても心地よいハイキングになったと思います。

（行成正昭：友の会役員、茨木 靖：博物館学芸員）

おはらひでお
●大原秀夫さん

先日はハイキングのお世話をいただき、ありがとうございました。私はウォーキングが好きで一人でよく行っていますが、一人ではただウォーキング



阿川梅の里を望む

をただけのことで、運動にはなりますが知識は増えません。今回は事務局の方、学芸員の方等より歩きながらいろいろなことを教えていただき、本当に良かったです。ありがとうございました。

●伊勢ひとみさん

梅見ハイキングに参加させて頂き、お世話になりました。当日は絶好のハイキング日和で、そのうえ、梅の花もちょうど満開でラッキーでした。芳しい梅の香りに包まれながらの7 km余りのハイキングは歩きごたえがあり、日頃の運動不足解消にもなりました。昼食にと売店で頂いたちらし寿司やおそばも美味で嬉しい一日になりました。ただ、参加者が思ったより少なかったのが残念に思いました。

●篠原瑞稀さん

きれいな梅の花が、とても印象に残りました。10 km以上歩いて、運動になったし、リフレッシュができました。空気がすんでいて、気持ちよかったです。また参加したいです。

「点々と ピンクにそめる 梅の花」



平成26年度友の会総会が、4月27日（日）午後2時30分より、博物館講座室にて開催されました。25年度の事業報告・決算報告並びに26年度の事業計画案・予算案について審議が行われ、承認されました。その後、場所を1階企画展示室に移し、担当学芸員による企画展「いただきます～す！一食の生活史と自然誌～」の展示解説を行いました。

今年度は、宿泊を伴う行事（キャンプ）を1回、日帰りバスツアーを2回計画しています。その他にも楽しい

行事がたくさんありますので、奮ってご参加ください。

1. 平成 26 年度友の会行事

- (1) 伊島を歩こう (終了)
実施日：6月7日(土)
場 所：阿南市伊島
- (2) 草や木の実でジャム作り (終了)
実施日：6月22日(日)
場 所：博物館実習室
- (3) キャンプで自然体験 (宿泊を伴う行事)
実施日：7月26日(土)～27日(日)
場 所：名東郡佐那河内村
- (4) 板野周辺を歩こう (文化財巡り)
実施日：9月27日(土)
場 所：板野郡板野町
- (5) 秋の山を歩こう
実施日：10月18日(土)
場 所：名東郡佐那河内村
- (6) 化石を探そう (日帰りバスツアー)
実施日：11月8日(土)
場 所：高知県安田町唐浜
- (7) 京都日帰り研修 (日帰りバスツアー)
実施日：11月15日(土)
場 所：京都市内
- (8) リースを作ろう
実施日：12月14日(日)
場 所：博物館実習室
- (9) こんにやく作り
実施日：1～3月(日は未定)
場 所：博物館実習室
- (10) 大敷網体験
実施日：2月(日は未定)
場 所：海部郡海陽町

※実施日や場所については変更することがあります。会員の皆様には開催前に詳しくご案内させていただきますので、ご確認を宜しくお願いします。

2. 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から等)を提供します。

3. 図録の販売

- (1) 企画展図録「いただきま〜す！一食の生活史と自然誌一」の販売をします。(販売中)
- (2) 企画展記念出版物「まんまるワールド―世界と四国の哺乳類―」の販売をします。

4. 友の会会報の発行

会報「アワーミュージアム」No.54～55を発行します。

5. 会員募集

- (1) 博物館企画展チラシに会員募集の広告を掲載し、新会員の獲得に努めます。
- (2) 「食べる！文化の森フェスティバル」と「文化の森大秋祭り!!」で友の会コーナーを設置し、友の会のPRに努めます。

6. 友の会グッズの販売

クリアファイル2種(人文・自然)を販売します。

7. 平成 26 年度友の会役員

会 長：鳥居 喬
副会長：大杉洋子・行成正昭・高島芳弘(館長)
幹 事：伊勢ひとみ・澤 祥二郎・徳野壽治
 中村由香・松家京子・水野和憲
監 査：石尾和仁・南部洋子
事務局長：久米みどり(副館長)
事務局員：三好康彦(課長補佐)・鉄谷雅史(主任)
 磯本宏紀(主任)・辻野泰之(主任)



わたしの新たな挑戦

うえた ひろのり
上田 浩敬(鳥居龍蔵記念博物館 主事)



この度の人事異動で高校という学校現場から鳥居龍蔵記念博物館への異動を聞いたとき、頭が真っ白になりました。まず、博物館への異動があること自体、私にとっては初耳でした。私は徳島県立辻高校で日本史の教員として勤務しており、次はどここの高校へ行くのかと不安をかかえていた矢先の仰天人事に、不安な気持ちもどこかに飛んでいきました。

4月、初めて鳥居龍蔵記念博物館へやってきて勤務内容の説明を受けました。ふたたび頭が真っ白になりそうでした。正直、鳥居龍蔵博士については名前を知っていたくらいでどのような方なのかあまり存じていなかったのです。その私が、鳥居博士の残した資料の整理及び鳥居博士についての企画展の開催、外部への講演・授業など、まるで鳥居博士の専門家でなければできないような仕事をこれからしなければならぬと伝えられました。また、学芸員の資格も取って欲しいと言われたのでした。あまりに予想外の出来事に、しばらく何も考えられませんでした。

高校教員としての私は、バスケットボール部の顧問として、時には生徒ともに体を動かすこともありましたが、今は鳥居博士に関する分厚い書物と格闘しています。汗を流すことはなくなりましたが、たまに難解な内容に脂汗をかくことがありま



す。毎日生徒の喜怒哀楽に振り回されていた私が、今では仕事の大変さに四苦八苦する毎日です。とにかくありとあらゆることが初めての経験でした。博物館の仕事は知れば知るほど多岐

にわたり、いかに学芸員や職員の皆様が努力され苦勞されているのかを身をもって感じました。私が外から見ていた博物館と裏から見た博物館では全くの別物だったのです。また、様々な分野のプロフェッショナルの集まる職場でもあり、生徒に教科書の内容を教えて満足していた私とは天と地ほどの差がありました。結局この現実を受け止めるのに一ヶ月ほどかかってしまいました。

しかし、決まった以上は全力を尽くすしかありません。徐々に仕事を覚えながら日々発見、勉強の毎日です。まるで何もわからない高校1年生になったかのようですが、私に3年間という長い成長期間は与えられていません。来年頭にはさっそく企画展という試練が待ち受けていますし、冬にはミュージアムトークという難題を任せられました。とにかく時間はあってないようなものです。博物館という別世界で生きていくために、そして来館者の方の要望に少しでもこたえられるように、一から勉強して精進していきたいと思えます。このような頼りない小生ではございますが、みなさま今後ともよろしくお願いいたします。

アワーミュージアム 第54号

2014年6月30日発行：徳島県立博物館友の会
 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
 TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
 E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp



新スタッフ紹介



●^{くめ}久米みどり (副館長)

4月から博物館勤務となりました。事務室におりますので、気軽に声をおかけください。

博物館での業務は初めてですが、皆様方が築いてこられた友の会の足跡に学びつつ、スタッフの一員として、より魅力的で充実した博物館、そして友の会づくりに貢献できるよう取り組んでまいりますので、どうかよろしくお願いたします。



●^{てつたにまさふみ}鉄谷雅史 (企画担当 主任)

今回の異動で20年間の教員生活に一区切りをつけ、海部郡牟岐町の牟岐中学校から転任してまいりました。3月までは、全国の博物館や資料館を訪れ、各地の自然や文化にふれてきましたが、4月からは、来館された方々が徳島県の自然や文化にふれる機会を提供する立場となり、その劇的な変化に、最初は戸惑うことばかりでした。

友の会では事務局員として、会員の皆様と共に県内外の自然や文化にふれていきたいと考えております。微力ではございますが、どうかよろしくお願いいたします。

